

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 21 年 1 月 26 日
事業所名	グループホーム円頓寺北館
事業所番号	2370401446
記入者名	職名 管理責任者 氏名 喜楽末子
連絡先電話番号	052-583-3166

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	”人生楽しく自分らしく”の理念のもとに、いかなるときもその人らしさを追求していきたい。地域に開かれたホームづくりを目指し、地域住民を巻き込んだ実践、努力をしている。	今後も地域運営推進会議等で情報を交換し、ホーム主催の催し物、地域行事への参加を出来る範囲で行いたい。ノーマライゼーションの思想のもとに、地域住民と利用者との接点・融合方法を今後も探っていく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を念頭に置き、ユニット会議や個別ケアカンファレンスを通して理念の実践へ向けて取り組んでいる。また、日々常に業務連絡、暮らしの中での職員間の報告・連絡・相談を心がけている。	今後も報告・連絡・相談の充実に努力していく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議によると、グループホームというものがそこにあるという周知はされてきたようだが、認知症に対する理解はまだのようだ。もともと家族が少ないこともあり、家族会の発足には至っていない。	季節ごと、行事ごとに便り等を出し(電話も含む)、まずは関係作りから始め、家族の積極的な参加を呼びかける。地域住民に対しては、運営推進会議や子供会との協賛イベントを通して、地域とも少しずつ関係を構築していく。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣住民には、利用者に職員が寄り添い散歩や買い物の見守り、日常行動を共にしたりしているのを日常的にみていただき、少しずつ認知してもらっている。入居者さんを見かけたよ、などと情報を頂けるようになった。	子供会との協賛イベント、地域行事への参加を通して日常的なつきあい、関係作りをしていく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動があまり機能していないようである。運営推進会議にて情報を収集し、お祭り、運動会、サークル会、選挙等地域の行事にホーム側から積極的に参加している。	昨年参加したことで実績ができ、違う学区から招待があったりもしている。(運動会等)今後も利用者の希望があれば参加したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>今後も、子供会が協賛したい、と申し出があったので期待したい。子供会との関係を通して地域からの理解を得る、地域への貢献ができるように努めたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>評価を受けたことを真摯に受け止め、役員会議、管理者会議、ユニット会議において結果を報告・共有している。サービス改善に向けての具体的な方法を添えて地域運営推進会議にて報告、理解協力を得る取り組みをしていく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>年度初めに「平成21年度運営推進会議開催計画書」を作成し、計画的に進めていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>今後も関係づくりに一歩ずつの前進を期待したい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>常に意識して防止に努めていかなければならない問題であるので、自分たちのケアを振り返り、引き続き防止に努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>問い合わせの時点から納得いただけるように、疑問点等を確認し、丁寧に説明をしている。契約や解約の際も、事前に利用者や家族に対して文書に沿って説明し、理解・納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者同士の意見交換もあり、普段からかなり思いをぶつけあっている。それらを意見としてとらえ、個人・個性を大切にしている。</p>	<p>利用者同士の意見が相反する場合はどうするのか。よりよいホームづくりを目指して、職員のチームケアによって解決していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>身寄りのない利用者、また遠方に親族がいる利用者が多い。その中でも定期的に(1ヶ月に1回)手紙や電話という形で近況報告をしている。また、その際金銭出納帳のコピーと領収証も添付して郵送している。</p>	<p>1ヶ月に1回の手紙のほかにも催し物があると利用者から家族にお知らせの便りを出しているが、まだ来訪者が得られていない。まずは手紙を通して関係作りに力を入れたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議・訪問時に意見、不満、希望を拝聴している。ユニット会議で職員十分に話し合いサービスの質の向上に努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日の業務の中でも必要に応じて意見や提案に耳を傾けるようにしている。また、月2回の会議でも何でも話し合える雰囲気作りに努力している。現場の職員からの意見や提案は、運営者との会議でも共有している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員一人一人が利用者の状況に応じ対応ができるように、勤務の調整に対し、お互いに助け合い努力している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員に対する期待と楽しみもあるが、やはり利用者の中には不安を感じる方もある。結果として良い方向へ行くように、サービスの質の向上に努めている。		同様に職員もダメージを受ける場合もあり、チームケア・役割分担に心がけ、前向きに取り組んでいきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に情報を集め周知している。希望する職員や適切な職員に研修に参加してもらっている。その内容は研修報告の作成、ユニット会議において報告してもらっている。		職員から勉強したいという希望が多数あり。今後も機会があるごとに参加してもらいたいし、参加することを期待したい。そのための情報提供など支援していきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内の同業者間でコンソーシアムを月1回開き、勉強会・研修会をし、意見交換をしている。また、ホーム紹介などをして、お互いに刺激しあい、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃からささいなことも話し合っコミュニケーションを図り、また職場外での交流会も開き、ストレス解消に取り組んでいる。		チームケアを推進していくに当たって大切な課題であるので、これからも意見を言いやすい環境づくり、関係作りに努力していくよう取り組んでいく。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	普段から会話をする機会をもち、お互いに壁を作らず話し合いができるように心がけている。各自が向上心を持って努力できる勤務体制に努力している。		いろいろな世代の職員がいることを有効に活用し、切磋琢磨し、よりよいホームづくりができるように努力したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>まずは本人が語っていることを素直にありのまま受け止める姿勢を大切にしている。職員にとって得意・不得意があると思うが、すべての職員と話せる機会をつくり、いろんな思いを引き出せるよう努力している。</p>	<p>日常生活の中で本人の感情の変化に気づいて、困っていることや不安に思っていることにいち早く気付くようにしており、ホーム内で好きなことにも積極的に取組んでもらっているが、今後は外出したり、地域行事参加に力を入れて取組みたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>手紙・アンケート・電話で機会を積極的に作って努力をしている。</p>	<p>遠方の家族の方も電話や本人の書いた手紙等をきっかけに来訪して下さったこともあり、今後も連絡をとり、関係を保ち続けていくように努力したい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人・家族と話し合い、話を聞く中で必要としているサービスの見極めをし、よりよい支援につなげている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族の方の環境の変化でなかなか来訪がない。なかなか意見の引き出しができていない状況である。</p>	<p>いたしかたない事もあるが、電話や手紙がきっかけでつながる縁もあり、今後も力を入れて取組んでいく。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は日常生活の中で利用者の自発的な言動を待ち、見守りを第一にしている。利用者同士のふれあいがかなりあり、その中での喜怒哀楽がとてもよく出て、教えられることが多く楽しく明るいホームになっている。職員がその利用者との時間を共有できることに喜びを感じ、職員自身も向上している。</p>	<p>利用者の中には料理・裁縫・書道・理容・絵画等知識豊富で、感情も豊かである方が多く、職員はそんな利用者を尊敬している。職員としてこれからもそれらの才能、残された力を形にしていく取組みをしたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族のある利用者は少数であるので、家族関係がトライアングルには築けていない。		ホーム側からは断ち切ることなく、電話や手紙など、関係作りへの努力は続けていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会や電話をしたり、手紙をやり取りしたりする事でよい関係が生まれている。今後もお互いに何でも話し合えるよりよい関係を築いていけるような支援をしたい。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	断絶した親子関係が復活したケースもあるので、支援に努めたい。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が介護をするという立場で主張しすぎず、まず見守りをする事で、利用者同士のふれあいが多くうまれている。孤立しそうな利用者さんも職員が間に入り、利用者同士が支えあえる関係を支援している。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了の経験があったが、新しい利用者や家族の受け入れで断ち切れている。		本人が主体となって生きていくうえでいろいろな人々の関わりは大事であるので、関係を続けていく努力をしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>表面的な行動ばかりに目を向けず、その人のありのままの言葉や姿、行動に目を向けて常に「本人本位」「その人らしさ」を考えながらケアマネジメントにあたっている。</p>	<p>ケアプランの見直し時にセンター方式のシートを取れ、スタッフ全員で取り組む。現状に満足せず、常に「本人本位」「その人らしさ」を追い求めていく。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族知人などの馴染みの方たちとの関係作りから再構築したいと考えている。その第一歩として手紙を継続的に出せるように、力を入れている。具体的には、ただ便箋等を準備するのではなく、入居者さんの写真入りの便箋を用意し、入居者さん本人も、スタッフも書きやすい工夫をしている。</p>	<p>返事がなくても、ホーム側から絶やすことのないように関係作りに努めていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日スタッフは入居者さんのペース、気持ち、できることを意識して記録をとっている。それを見直したり、個別ケアカンファレンスにて情報収集し、聞き取りをしている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>作成・見直しの際には、必ず本人と家族にその都度希望を確認している。それらに本人の現状を十分踏まえた上で、必要な課題やケアについて個別ケアカンファレンスにて情報、意見、アイデアを収集している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じて見直しをしている。また、入院・介護度の変更、心身状況の変化が起きた場合にはその都度見直しの必要がないか検討している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日常の記載にとどまらず、それに関わる本人の行動、会話、気持ち、できることやスタッフの対応(ケア)、またそれに対する入居者さんの反応を記録するように努めている。それらを見直したり、個別ケアカンファレンスで情報収集し、見直しに反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今のところそういった状況はないが、相談や要望には耳を傾け、真剣に寄り添い支援ができるように心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通して民生員委員や子供会の会長さんと話をする機会を設けている。地域イベントへの参加、ホームのイベントへの協賛(子供会)もでき、地域の子供たちと入居者さんたちとの交流ができた。		イベントを通しての交流はあるが、ごく近隣の住民、スーパーの店員さん程度に日常的な交流は限られている。引き続き、入居者さんが地域に根付いていけるようなきっかけを見つけていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入退院、他の施設への転出の際には、本人や家族の希望を十分に話し合っている。また、居宅療養管理をお願いしている薬剤師さんがケアマネジャーであり、運営推進会議の委員でもあるので、地域の情報提供をお願いしている。		生活保護の方が多いため、地域のインフォーマルなサービスを今後も探し、ホーム内で入居者さんの生活が完結することのないように支援していきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	要支援認定が出た方のケアプランをどのようにグループホーム内で作成したらよいかを相談したことはあるが、それ以外はほとんどできていない。		地域包括支援センター主催の地域の研修、事例勉強会などに積極的に参加をして、関係作りから努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療クリニックへ往診をお願いしている。24時間の連携・対応が可能であり、往診時もゆっくり入居者さんの話を聞いてくださったり、スタッフも些細なことも尋ねることができるようになった。薬剤師も往診時に同行して下さるので、薬のことも気軽に相談できる。入居者さんやご家族、スタッフも安心している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者さんへのケアが行き詰ってしまったことがあり、認知症に詳しい精神科の医師を紹介され、受診。脳のCT検査を行い、認知症の進行によるものではなく、精神的なダメージからきており、本人も苦しい思いをしていたことがわかった。現在も適切な治療を受けることができている。穏やかに過ごすことができている。		今後も必要があれば、医師による検査・診断を行ってもらうことも視野にいれ、本人にとって一番良い選択・支援をしていきたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	出勤していなかったときの特変事項を申し送ったり、気になる症状がある時には、普段から気軽に相談している。また、往診時にも同行していただいている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際に、ホームとしての意向を伝えている。ホームの待機期間も踏まえ、本人の意向も確認しながら、医療機関との退院への共通目標を早期に立てるようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する希望は聞き取りはしているが、それ以降緊急に必要なない場合には繰り返し話し合いをすることはしていない。		デリケートな問題であり、とても大切な問題である。いざ終末期が近づき思いが変わることも考えられるので、必要性に応じて密に話し合い、関係者がお互いに意向を確認、共有していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者さんやご家族の思いに沿った重度化や終末期への対応を実現させるために、在宅医療クリニックへ主治医を変更している。現在は、日々の往診や体調不良時の連絡・連携を通して、お互いに関係を深めているところである。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供表を作成し、十分な情報提供ができるように心がけている。		今後は、身体的な部分だけでなく、馴染みの暮らしやその方の思いを取り込んだ情報提供も積極的にしていきたい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対し目上の方として尊敬の念をしっかりと持ち、言葉遣いや対応、また記録を書く上でもプライバシーへ配慮するように取り組んでいる。個人情報にも十分に注意するよう気をつけている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望等を普段の何気ない会話の中で引き出し、音楽、裁縫、園芸、買い物など、さりげなく働きかけをして、自己選択・決定できるように支援している。日々の暮らしの中で役立つことに納得し、喜びを見出してもらうよう支援している。		話しによく耳を傾けることで見えてくることが多い。また、利用者同士の語らいでも見えてくることもある。日常生活の中でそれらを見つけ、理解していく。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合は極力表に出さないよう努力し、散歩や買い物もその方のペースで自由できるように努力している。なお、一人で行きたいという希望の方にはさりげなく見守りをしたりして、その人希望に沿って支援している。		職員が休憩等で少なく温かい見守り支援が出来ないときもある。そのような時はお茶や楽しいお話で少し時間をずらしてもらったり、気をそらせるようにしているが、それが行動制限につながないように引き続き方法を探していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の中に元理容師・美容師だった方もいて毛染め、セットなどやって下さることもあり、とてもほほえましい状況である。ヘアークットはボランティアが来たり、利用者が近くの理容室に行くこともある。ひげそり等は職員が見守っている。		女性が多いので、買い物に出かける回数を増やし、楽しい時間を過ごしてもらおう支援をしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	チラシや本を見ながら、メニューを考え、買い物・準備・調理・盛り付け・配膳・下膳・洗い・片づけまで利用者と職員が一緒に楽しくやれている。また、味付けも利用者に教えてもらったり、相談したり、一緒に話をしながら食事をしたりと和やかにできている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みでおやつ、フルーツ、おかず等買われ、好きなときに食べてもらっている。お酒は年中行事や好みで飲まれる。喫煙も館内喫煙以外は禁止していないが、利用者の意思でやめられている。外食についても希望通りに支援している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツの使用については利用者の希望を聞いて、パンツの種類、パットの種類と組み合わせで何度も試し、ご本人の納得されるよう取り組み、気持ちの良い排泄ができるよう支援している。		ご本人の拒否による失禁があるので、利用者の意思と気持ちを尊重しつつ、職員の見守りと声かけを徹底する。本人にとって気持ちよい排泄を支援したい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、男性から入浴している。順番についてはこだわりがあり、利用者の希望が反映された形で入浴していただいている。また入浴時間も希望通りで1時間半入られる方もいる。入浴拒否される方には声かけのタイミングを工夫したり明日にしたりと臨機応変に対応、支援している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠できるよう、本人に聞きながら温度調節には気を遣っている。また好きな時間に自由に休息してもらっているし、様子見等もしている。本人の気持ちを大切にしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌、絵画、裁縫、書道、園芸等で活力・才能を発揮しており、日々の暮らしの中で利用者の歴史や能力を知ることができている。活力に職員が追いつかないこともあるほどで職員も楽しんでいる。		利用者の主体性を重んじると生き生きとしてくる様子がよくわかる。これからも「自分らしく楽しく」を大切に、利用者との時間を共有したい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん、家族と話し合い、利用者さんの希望日に希望の金額を所持してもらっている。所持管理が出来ない利用者さんについては職員が買い物の見守りし、支払いはご本人でもらうよう支援している。また、一人で買い物をする方にも声かけ、見守りを欠かさずしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	真夏や真冬の散歩は難しい面もあるが、車での外出支援も行っている。利用者の希望に沿って外出支援できるように方法を常に考えている。また、一人で外出される利用者に対して常に安全な環境を確認しており、行き先の把握をしている。		今後も楽しく外出できることを継続する。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一日中、外出・散歩が絶えないが、最近は昼食や夕食緒外食があまりできていない。		行きたいとの申し出があれば、即対応したい。また、申し出をしてもらいやすい環境も作っていく必要がある。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、必要に応じてスタッフが手伝い電話をしている。手紙は1ヶ月に1回は書いてもらうよう取組んでいる。また返事をもらいとても喜んでくれる利用者を見ることができるので、職員も利用者を書きやすい支援を積極的にしている。また手紙が書けない利用者については職員が代筆、様子を書くなど支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特にしていることはないが、玄関に鍵がかかっている開放感が来訪者にとっても利用者にとってもある。訪問があった時は他の利用者まで喜んで迎えてくれるほどよい雰囲気作りができています。		定期的に家族や知人へ手紙を出すことによりコミュニケーションが取りやすくなったこともあり、今後もいろいろな馴染みの人たちからの支援を取りこみ利用者との関係作りに努力したい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び職員が自分の身において考え、身体拘束排除を当然として真剣に取り組んでいる。身体拘束及び言葉による拘束にも常に気を配って、日々のケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵をかけたい利用者があるが、より安心できる関わりを考え、取り組んでいる。他の利用者は居室、玄関に鍵をかけていない開放感を満喫している方が多い。館内もエレベーターにより移動が自由である。地理に不安があるものの外出される利用者には後からそっと見守りをしている。		自由な環境を維持するために常にリスクについてユニット会議にて話し合い、継続できる方法を考えていく。今後も出来るかぎり利用者の希望に添えるよう取り組んでいく。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮するため、とても重要なことと位置づけている。ドアを開けるときは必ずロックをし返事をもらってから開けるよう配慮している。聞けてもらいたくない場合には、リスクを話をして了解を得たうえで本人の思いに沿っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	事務所に一時預かりをしている。利用者が安心して預けることができるように、書類を作成し、サイン・印鑑も押している。本人の気持ちに沿った危険防止に取り組んでいる。必要な時は何時でも言ってもらう様声かけしている。男性でも包丁をうまく使いこなす方がいて、職員見守りのもとで使用していただいている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の心身の状況を常に把握し、事故報告書やヒヤリハット報告書を個別ケアカンファレンスにて検討し、再発防止に向けて、職員間で情報を共有している。転倒事故は時々ある。		事故防止のため、職員の意識の向上とあわせて改めて利用者の安全な環境整備にも積極的に取り組んでいきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホームの主治医に研修を開催してもらい、職員の何気ない質問疑問に答えて頂いた。		今後も研修会、講習会に積極的に参加したい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災対策は最低限、取り組んでいるが、地域の消防団がない状態である。		住宅密集地であるので地域との相互協力ができるよう運営推進会議での話し合いをしていく。地域の方も同じ思いのようである。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	常に本人の自由な行動に伴うリスクについては家族に説明し、理解をもらうよう話し合いをしている。そのうえで自由で楽しい暮らしをしてもらう提案、取り組みをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に見守りとご本人の訴えに耳を傾け、心身状況の変化に気づくように心がけている。その情報を職員間の報告・連絡・相談に力を入れて共有に取り組んでいる。また他には主治医、看護師、薬剤師に相談し、迅速なよい対応ができています。		今後も利用者の体調変化には気配りを怠らないよう期待したい。また主治医や薬剤師などに相談しやすい関係作りをしていきたい。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医から説明を受け、また日常的に些細なことも薬に関することは薬剤師にもよく相談にのってもらっている。特に新しく処方された薬については家族の方にも電話で相談、了解のうえ服用するよう取組んでいる。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	主治医から話を聞き、職員による介助のある利用者は記録に残し、自立の利用者にはさりげなく確認している。食事のメニューも工夫し、散歩・外出など適度な運動を働きかける取り組み、水分摂取の声かけをしている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自発的にやられている方もおり、介助や見守りが必要な利用者には声かけにて支援している。義歯管理が出来ない利用者は夜中職員が預かり洗浄している。口腔ケアの説明会も受けたことがある。日中でも気になる方は口腔ケアをしている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量を調査したことがあり、よい結果がでている。主治医に相談し、嗜好も考慮の上栄養バランスを考えたメニューにしている。また年4回、1週間食事・おやつの写真をとって栄養士にアドバイスをもらう取り組みをしている。食事についてのアンケートを利用者からとって検討もしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種は毎年受けている。入浴日のバイタルチェックと主治医による健康診断も毎月受けている。ホームでできる手洗い、うがい、清拭等も日常的に励行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については毎日買い物をし、新鮮なものを使うようにしている。利用者の嗜好品も生ものに関しては十分に気をつけている。また火を通す調理を心がけている。フキン、包丁、洗いかご等は毎日消毒・洗濯をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	鉢・車・自転車等が整理され、プランターなども通行の邪魔にならぬよう安全と美観の両立を工夫している。また看板も安全に取り付け板につけてあり、しかも利用者手作りの看板である。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間については利便性の追求（利用者の希望）である殺風景なシンプルさがある。が、窓のカーテン等リサイクル布地で利用者の手作りである。ガラスも防音ガラスを使用。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの配置やソファの向きに気を配り、居間においても独りになれるし、利用者同士の歓談もできる。自由で楽しい憩いの場になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	居室内は日照を考えた配置になっている。御家族 の方のご厚意により使い慣れた家具を持ってみ え、自分の好み、使い勝手が良いよう工夫されて おり、まさに自分の城である。歩行不安定な方は 常に安全な環境整備をしている。毎日配置換えを している利用者もいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	空調のつけっ放しにならないように1日数回意識 的に換気をしている。状況に応じて、温度調節を 考え、着衣による温度調節、声かけもこまめに 行っている。冬場は加湿器を使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	車椅子の人が他の方と仲良く生活できるよう家具 配置、トイレの大きさにも配慮、一人ひとりが自 立した生活が送れるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	個性的な利用者が多く、ケアがうまくいかず混乱 や失敗が起こり、利用者同士の喧嘩に発展してし まうことがある。利用者一人一人、その方がわか りやすいように工夫して声かけをしている。		個性、状況判断が出来ていてもケアに活かせない 場合がある。一人一人の利用者に応じた力を見出 してもらえるように、職員のケアの向上に努めたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	建物の外回りには花壇を作ったり、野菜を栽培し たり利用者がとても楽しみ世話をしている姿があ る。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 す る 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者さんがとても元気であるという事。利用者さん同士の会話があり、助け合ったり、ケンカしたりと、喜怒哀楽がはっきりしていて職員が追い付けないほどのパワーを発揮していただいている。いろいろな才能を生かした作品を作ってください、職員の楽しみにもなっている。自由に思うがままに外出したり、買い物を楽しんでいただいているし、職員も一緒に楽しんでいます。